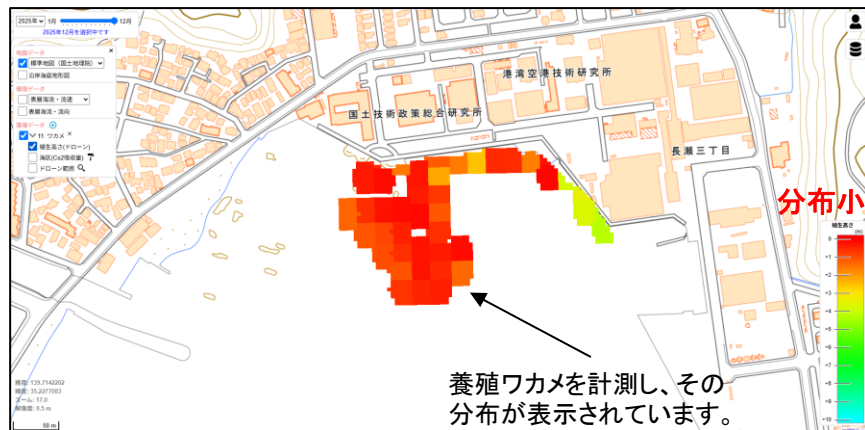


新たに開発した藻場計測技術のデモンストレーション開催概要

- ブルーカーボンは、海洋環境改善などの多面的効果を有し、新たな地球温暖化対策として活用の促進が期待されています。
- 国土交通省は、水中透過性の高いグリーンレーザーを搭載したドローンにより藻場を計測し、その計測データを取込むことにより、藻場の分布や面積をシステム上にて可視化できるシステム(Blue carbon Data Archive System(通称BDAS:ビーダス))を開発しました。これにより、高精度かつ効率的に藻場の分布や面積が把握可能となります。
- BDASの普及促進が図られるよう、企業、自治体などに紹介するなど、官民で取り組みます。



グリーンレーザー搭載ドローン



BDASによる藻場の分布、面積表示

分布大

- ・グリーンレーザー搭載ドローンにより藻場を計測し、その計測データをBDASに取込み解析することで藻場の分布や面積を地理院地図上に表示できます。
- ・藻場の面積からCO2吸収量を容易に把握することが可能です。
- ・養殖海藻も計測できるため、生長度合いの管理などにも活用できます。



グリーンレーザー搭載ドローンのデモンストレーションの様子

BDASデモンストレーション概要

開催日時: 3月6日(金) 13:30~16:00

開催場所: 港湾空港技術研究所(神奈川県横須賀市長瀬3-1-1)

- 主な内容: (1)ブルーカーボンの拡大に向けた取り組み(国土交通省港湾局)
 (2)ブルーカーボン-クレジット制度と計測手法の現状-(港湾空港技術研究所)
 (3)藻場計測技術のデモンストレーション及び
 Blue carbon Data Archive System(BDAS)に関するご紹介
 (港湾空港技術研究所ほか)

参加者: ブルーカーボンデータ計測マニュアル研究会メンバーを始めとした企業、研究機関、国機関及び自治体関係者等 約220名(対面: 約90名、web: 約130名(うち報道機関5社))